



ヨット部主将からの挨拶

私たち大阪大学体育会ヨット部は、人材育成・人間的成長を目的とし、目標に全日本インカレ優勝を掲げて練習やレースなどの活動を行っています。

一時期部員が減少し廃部の危機に陥りましたが、摩耶帆友会(ヨット部OB・OG会)によるご支援もあり人数的に持ち直し、また多くの諸先輩や保護者の皆様からのご寄付により私学と遜色ない機材(艇やセール)がそろいました。そのご支援のおかげで近年は全日本インカレに出場することができるようになりました。

しかし、今後私たちが全日本インカレで勝ち進むには、強豪校との差に気付き、またその差を埋めていく努力が必要です。そのためには関西水域にとどまらず、他水域からも食欲に情報を集めていくことが求められます。そこで問題となるのが資金面です。現在、部費の多くは消耗品に使う必要があり、部費を増額し無駄を省き、会計を見直しているものの、運営は厳しい状態が続いており、新しいことに挑戦することが難しくなっております。学生である私たちにとって、学業との両立を考えるとこれ以上の活動費用を負担することは厳しい状況です。

大阪大学未来基金のプロジェクトの一つである「大阪大学体育会ヨット部支援事業」を通して、これまで多くの支援をいただいておりますが、大阪大学体育会ヨット部が全日本で名を轟かせるため、どうかさらなるお力添えを頂戴いたしたく存じます。

皆様のご支援が私たちにとって、大変大きな力になります。部員一同、皆様のご支援に応えられるよう、全日本インカレ優勝を目指し日々の練習に励んで参りますので、ご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

第87代 主将 佐藤稜真

未来基金について

大阪大学では、学術研究や教育・人材育成を目的とする「大阪大学未来基金」を設けております。「大阪大学ヨット部支援事業」は大阪大学未来基金のプロジェクトのひとつです。個人、企業、団体のみならず皆様のご支援をお願い申し上げます。

ご支援について

[大阪大学 ヨット部]
<http://handaiyacht.jimdo.com/>
 [大阪大学 未来基金ご寄付のページ]
<https://www.miraikikin.osaka-u.ac.jp/315/>



大阪大学
ヨット部



大阪大学
未来基金 ご寄付

お問合せ：
 大阪大学未来基金事務局(大阪大学共創機構渉外部門内)
 〒565-0871 大阪府吹田市山田丘2-8 テクノライアンス棟B910
 TEL: 06-6879-8327 FAX: 06-6879-4337
 e-mail: kikin@office.osaka-u.ac.jp

大阪大学 ヨット部 検索
www.miraikikin.osaka-u.ac.jp



広がる、帆。

大阪大学未来基金
 体育会ヨット部支援事業

ご寄付のお願い

ヨット部の 歴史

大阪大学体育会ヨット部は昭和9年(1934)大阪帝国大学医学部ヨットクラブとして発足し、当初はA級ディンギーやクルーザーなどで活動されていた。やがて工学部も加わり、運動競技部としての道を歩み始めました。戦後再開された大学選手権(インカレ)では昭和28年(1953)全国4位の成績を収め、その後の次々に上位入賞を果たし、黄金時代となりました。その中でも昭和38年(1963)の全日本インカレ準優勝は大阪大学体育会ヨット部の歴史の中で最高順位となっています。しかし昭和39年(1964)初代の西宮浜庫が台風により崩壊し昭和41年(1966)新浜庫に移転、その後は部員数も戦線も乱高下いたしました。昭和44年(1969)には部員数が14人に激減しましたがそんな中でも昭和47年(1972)関西インカレ総合優勝と470級全日本インカレ3位を勝ち取り、部員数と実力は徐々に回復の道を歩み始めました。そして昭和53年(1978)・55年(1980)・57年(1982)の3回に渡り、国立七大学戦(七帝戦)優勝、56年(1981)には全日本インカレ総合3位を獲得しました。この間関西インカレでは常に上位を占めることが出来ましたが全日本での戦いは年々厳しくなってきました。平成7年(1995)阪神大震災により西宮浜の浜庫は全壊しました。約2年後3代目浜庫(現在の西宮浜庫)が新西宮ヨットハーバーに完成しました。平成26年(2014)にはスナイプ級で全日本インカレ10位を取るものの部員数が低迷、一時5名と減少しましたが皆様の熱い支援を受け、令和元年(2019)現在はプレイヤー28人、マネジメントスタッフ10人まで回復し全日本インカレ優勝を目指して活動しております。

3チームの 連携

スナイプチームは2017年より連続で全日本インカレに出場し、強豪チームといえるまでに成長しました。

それに対し、一度は人数不足から両クラスの運営が困難になりクラス活動消滅の憂き目を見た470チーム。2016年に復活を遂げ、右も左も分からない状況から試行錯誤を繰り返しながら全日本インカレ出場を果たすことができました。

そしてマネジメントチームは2019年に正式に発足した若いチームであるものの、両クラスでのインカレ出場を果たしたこの年に大きく成長しました。普段の練習では、栄養バランスを考えた昼夜の食事準備や海上での練習の運営やサポート、選手の体力管理やトレーニングの管理など多くの面で選手をサポートしています。また大会などでは、陸と海の協力体制を作り得点計算を通してチームの成績に大きく関わっています。

- 今後全日本インカレ常連校になるために、3チームの連携を強めて練習の質を高めていきます。

この部では
常に勝利を語る

練習の工夫(効率化)

1. 新奇性のある練習
2. 分断練習 成果が確認できる
3. 集中力を高める休憩、軽食摂取
4. コーディングしやすい練習
5. 指し手感覚(クルーの積極性)
6. 集中力を高めるゲームの利用

目指すべき路

阪大ヨット部は、昨年念願の全国インカレ両クラス出場を果たしました。470クラスの復活から4年、マネジメントチーム設立から1年が経った2020年。今年は全日本インカレ国公立1位を目指す10カ年計画の4年目でもあり、私たちは目標達成のために組織を固め、着実な成果を積み重ねています。来たる2026年度全国インカレにおける国公立一位という高い目標を達成すべく、目の前の練習を、波を、風をわれらが阪大ヨット部という帆で乗り越えていきます。